

## 当院の胃癌治療について

当院では外科・消化器内科・放射線治療科・病理部・  
化学療法室・薬剤部・栄養科・緩和ケア科など多職種  
によるチーム医療で胃癌治療にあたっています。

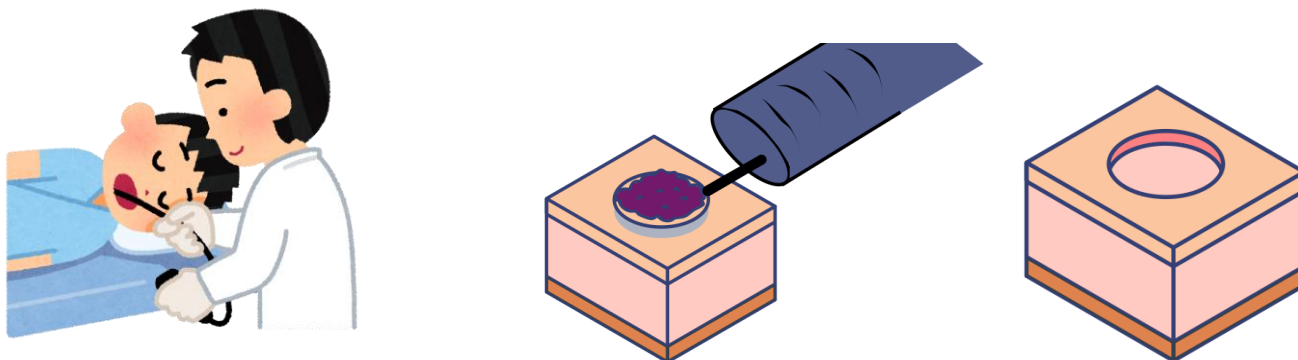


消化器合同カンファレンスで症例を検討して、個人  
の希望に添い、病状に応じて負担が少なく、効果的な  
治療を提供できるよう努めています。

胃の手術後は定期的な検診以外にも、薬剤師や栄養士によるサポートも通院の中で行なっており  
ます。

### ● 内視鏡治療

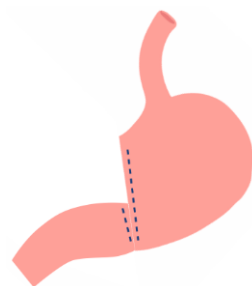
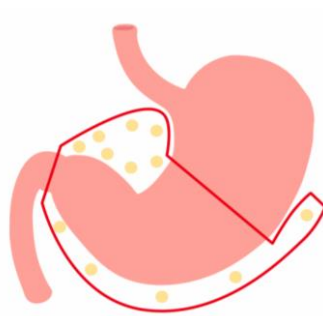
精密検査の結果、胃癌病巣が胃の表面（粘膜）にとどまるような早期癌と診断された場合、腹部を  
切開する手術はせずに、胃カメラで病巣のみを切除する内視鏡治療ができる場合があります。



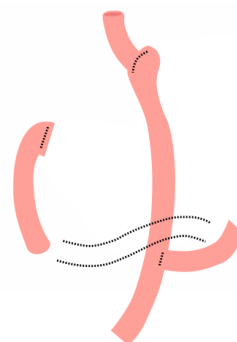
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

## ● 腹腔鏡下手術

癌病巣が胃の内部深くまで進んでいくと、胃周囲のリンパ節へ転移していきます。この場合、根治を目指す治療はリンパ節郭清を伴う胃切除術となります。当科では積極的に腹腔鏡下で手術を行い、術後の負担を軽減できるよう努めています。



幽門側胃切除



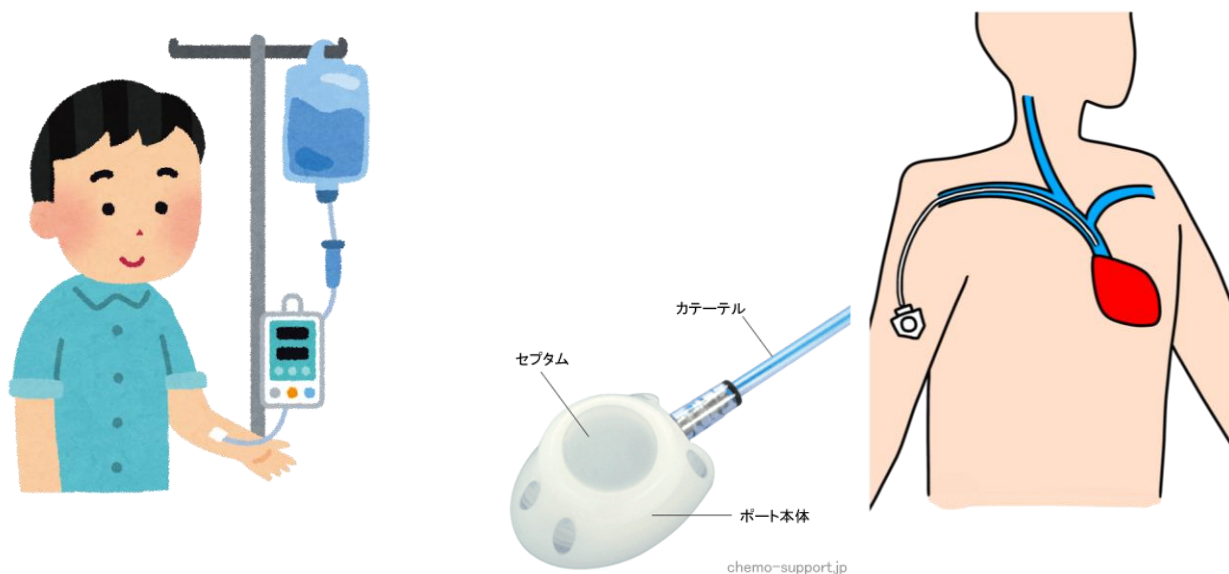
胃全摘

## ● 化学療法

進行癌の場合、根治的手術を行っても手術後に再発する可能性があります。このため、手術後に一定期間の抗がん剤治療（補助化学療法）を行うことがあります。これにより、検査では感知できないような微小な病変を制御して再発予防を図ります。

病状によっては、手術前の体力が比較的保たれている時期に、あらかじめ抗がん剤を行うこともあります。

また、精査の結果、癌病巣が胃から遠い臓器（肝臓、肺、腹膜など）へ広がっていると判明した場合は手術では治すことができません。この場合は全身にめぐらすことのできる治療、つまり抗がん剤で治療を行うことになります。



中心静脈ポート

治療方針は癌病巣の状態のみならず、年齢や体力、生活環境、切迫した症状、個人の希望などさまざまな要因を考慮して、個人個人に合わせて考えていきます。

可能な治療、他の治療選択肢について担当医とよく相談のうえ治療方針を決めましょう。